

シンプルコール(シリーズ) 設定ソフト

取扱説明書 (Rev1.21)

(文書番号 : 20001Z006)

(対象設定ソフト Version: 1.1.0.1 以降)

2021年10月27日

株式会社 **ハネロン**

= 目次 =

1	はじめに.....	1
2	動作環境について	1
3	インストールのしかた.....	2
3.1	本ソフトのインストール.....	2
3.2	.Net Framework3.5のインストール (Windows 8.1の場合)	3
3.3	USBドライバのインストール.....	5
4	割り当てられたCOM番号確認のしかた.....	7
5	アンインストールのしかた	8
5.1	本ソフトのアンインストール.....	8
6	本体との接続のしかた.....	9
6.1	本体の電源供給.....	9
6.2	電話機本体との接続用USBケーブル.....	10
7	起動と終了のしかた	11
7.1	起動のしかた.....	11
7.2	終了のしかた.....	11
8	通信設定のしかた	12
9	基本機能.....	14
9.1	メイン画面構成.....	14
9.2	メニューバーの構成.....	15
9.3	パラメータ編集のしかた.....	16
9.4	各編集画面の機能.....	17
9.4.1	回線設定.....	17
9.4.2	通話設定.....	19
9.4.3	本体機能.....	20
9.5	パラメータ読出.....	24
9.6	パラメータ書込.....	25
10	ファイル機能.....	26

■ シンプルコール(シリーズ) 設定ソフト取扱説明書

10.1	新規作成.....	26
10.2	開く.....	26
10.3	名前を付けて保存.....	27
10.4	上書き保存.....	27
10.5	終了.....	27
11	メンテナンス機能.....	28
11.1	動作ログ読み出し.....	28
11.2	集計データ(通話記録)読み出し.....	29
11.3	パラメータ初期化.....	30
11.4	外部バックアップRAMクリア.....	31
11.5	集計データ(通話記録)削除.....	32
11.6	端末ソフトバージョンアップ.....	33
12	システム機能.....	35
12.1	UIMカード電話番号読み出し.....	35
12.2	端末現在時刻読み出し.....	36
12.3	端末ソフトバージョン読み出し.....	37
12.4	通信モジュールバージョン読み出し.....	38
13	ヘルプ機能.....	39
13.1	バージョン情報.....	39
14	改訂履歴.....	40

1 はじめに

『シンプルコール(シリーズ)設定ソフト』(以下、本ソフト)は、電話機本体の動作に必要なパラメータ設定やメンテナンスを行うためのアプリケーションソフトウェアです。

本ソフトを利用することで、電話機本体の「パラメータ変更」「各種ログの読出し」「本体ソフトのバージョンアップ」などを行うことができます。

※「V1.1.0.0」以降の本ソフトは「シンプルコール(シリーズ)」用の位置づけになります。

(「V1.0.1.0」以前は「シンプルコール Light」用の位置づけ)

※本書の記載内容については、機能追加や改善のために予告なく変わることがあります。

※本書に記載してある会社名、製品名(商品、サービス名)は、各社の商標または登録商標です。

2 動作環境について

本ソフトを実行させるために必要なパソコンの動作環境は下記のとおりです。

No	項目	説明
1	オペレーティングシステム (OS)	• Windows 7 (32bit/64bit) • Windows 8.1 (32bit/64bit) • Windows 10 (32bit/64bit)
2	CPU	Intel®Celeron®CPU1GHz 以上
3	メモリ	1.0GB 以上
4	HDD 空き容量	100MB 以上 (パラメータファイル用ハードディスク容量は含まず)
5	解像度	1024×768 ピクセル以上
6	USB ポート 2.0×1	電話機との接続時に必要。
7	USB ドライバ	通信を行うために、FTDI 社のデバイスドライバをインストールする必要がある。
8	.Net Framework (※注 1)	.Net Framework3.5 がインストールされていること。

(※注 1)

- オペレーティングシステムによっては、別途「.Net Framework 3.5」をインストールする必要があります。
- Windows 7 の場合：標準で「.Net Framework 3.5」がインストールされているので不要です。
- Windows 8.1 の場合：標準で「.Net Framework 4.5」のみがインストールされていますが、下位互換はないので、別途「.Net Framework3.5」をインストールしてください。(対応方法は「3.2」項を参照。)
- Windows10 の場合：標準で「.Net Framework 4.6.2」以降がインストールされています。
「コントロールパネル」→「プログラム(プログラムと機能)」→「Windows の機能の有効化または無効化」画面で、「.NET Framework 3.5」にチェックが入った状態とします。

【memo】

USB ドライバは、下記 URL にある FTDI 社のホームページよりダウンロードできます。

URL : <http://www.ftdichip.com/Drivers/D2XX.htm> (※2019 年 9 月 1 日現在)

Currently Supported D2XX Drivers						
Operating System	Release Date	Processor Architecture				
		x86 (32-bit)	x64 (64-bit)	ARM	MIPS	SH4
Windows*	2017-08-30	2.12.28	2.12.28	-	-	-
WHQL Certified. Includes VCP and D2XX. Available as a setup executable . Please read the Release Notes and Installation Guides .						

※インストール方法については、「3.3 USBドライバのインストール」の項をご参照ください。

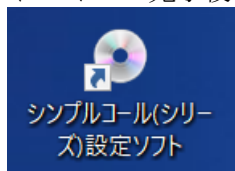
本書では、「Microsoft Windows 10 pro (64bit)」の画面例を元に説明しています。他の OS をご使用の場合や OS の設定により、画面表示が異なる場合があります。

また、本書内で示すソフトウェアの画面図 (ポート番号やバージョン番号などを含む) は表示例であり、実際のものと異なる場合があります。

3 インストールのしかた

3.1 本ソフトのインストール

- (1) インストーラ『[setup_SimpleCallSeries_SettingTool_Ver*_**_*.exe](#)』を実行します。
※「[Ver*_**_*](#)」部には、設定ソフトのバージョン情報が入ります。
- (2) インストーラの手順に従って、インストールを行います。
- (3) インストール完了後、デスクトップ上にショートカットアイコンが追加されます。



※スタートメニュー上にも「DMA World」－「シンプルコール(シリーズ)設定ソフト」が追加されます。

■ 重要 ■

本ソフトをWindows上で実行する場合、「.Net Framework 3.5」がインストールされている必要があります。OSの種類に応じた対応方法については、「2 動作環境について」の項をご参照ください。

3.2 .Net Framework3.5 のインストール (Windows 8.1 の場合)

■ 重要 ■

本ソフトをWindows 上で実行する場合、「.Net Framework 3.5」がインストールされている必要があります。インストールされていない場合、本章に従ってインストールを行ってください。

- (1) Microsoft ダウンロードセンターへアクセスし、「ダウンロード」ボタンをクリックします。

(ダウンロードセンター:<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=22>)



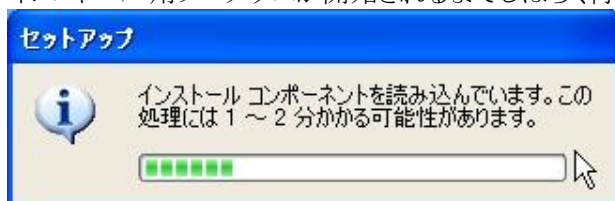
- (2) 「ファイルのダウンロード」画面から「実行」ボタンをクリックします。



- (3) 実行ボタンをクリックします。



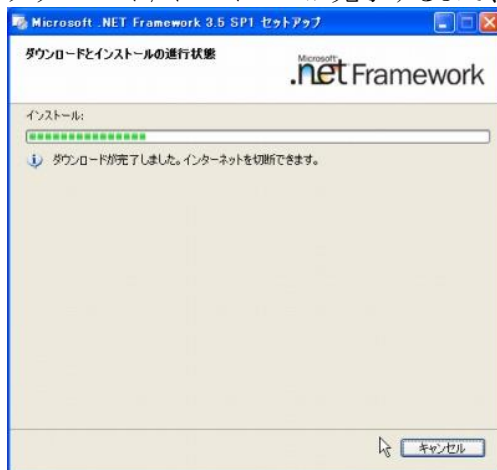
- (4) インストール用プログラムが開始されるまでしばらく待ちます。



- (5) インストールを続行するには、『マイクロソフト ソフトウェア追加ライセンス条項』に同意する必要があります。「同意する」を選択し、「インストール」ボタンをクリックします。



- (6) ダウンロード/インストールが完了するまで、しばらく待ちます。



- (7) 「終了」ボタンをクリックして、インストール作業を終了します。



3.3 USB ドライバのインストール

■重要■

- 電話機本体とパソコンを接続する際、専用ドライバをインストールする必要があります。
- 専用ドライバの個別インストールは、電話機本体ごとの初回接続時に自動的に行われます。

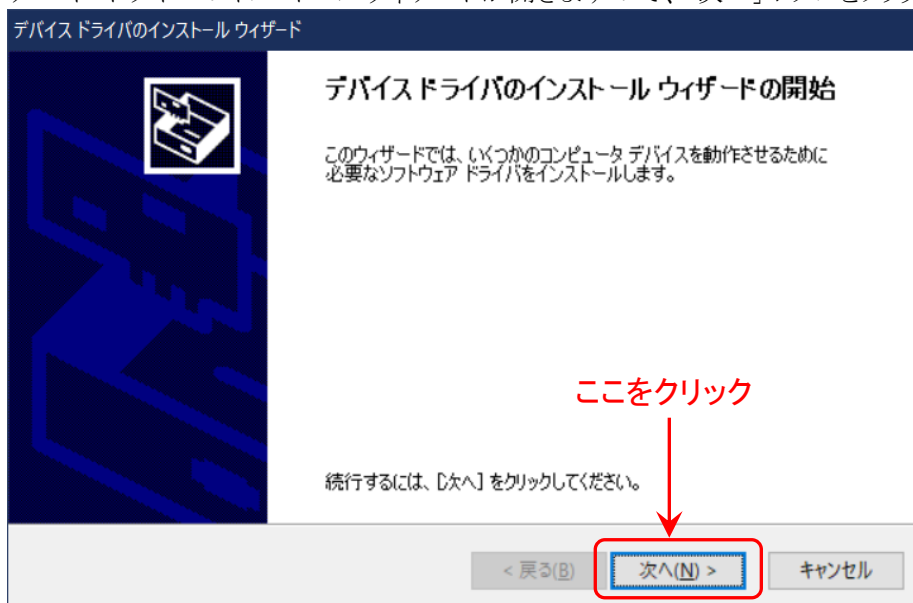
- (1) インストーラ『CDMxxxxx_setup.exe』を実行します。(※「xxxxx」には Version 情報 (x.xx.xx) が入る)
- (2) インストーラが起動するので、「Extract」をクリックします。



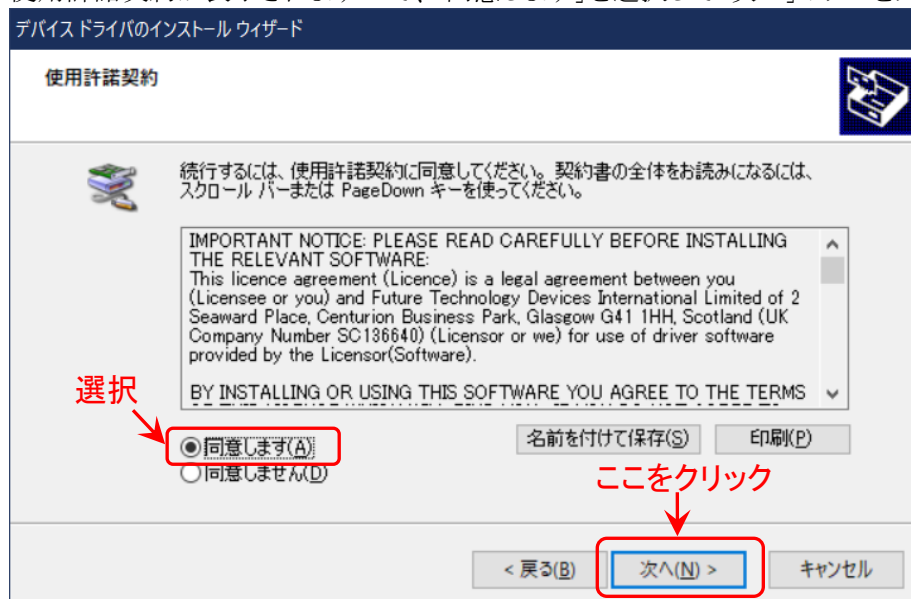
【memo】

この前後にユーザアカウント制御の画面が表示され、「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか?」という旨の確認があれば、「はい」をクリックします。

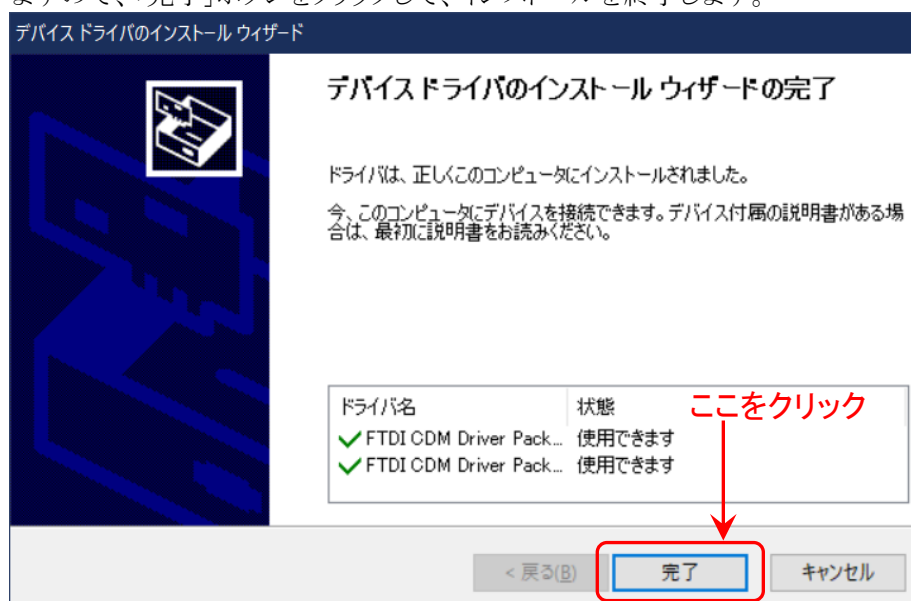
- (3) デバイスドライバのインストールウィザードが開きますので、「次へ」ボタンをクリックします。



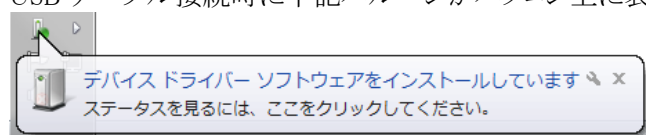
- (4) 使用許諾契約が表示されますので、「同意します」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



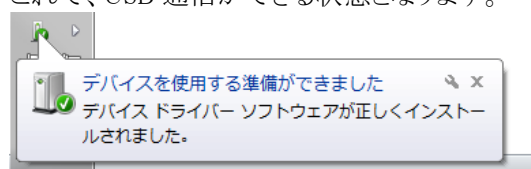
- (5) ドライバのインストールが行われ、デバイスドライバのインストールウィザードの完了が表示されますので、「完了」ボタンをクリックして、インストールを終了します。



- (6) パソコンと電話機本体を USB ケーブルで接続します。
(※接続方法は、「6 本体との接続のしかた」をご参照ください。)
- (7) USB ケーブル接続時に下記バルーンがパソコン上に表示されます。

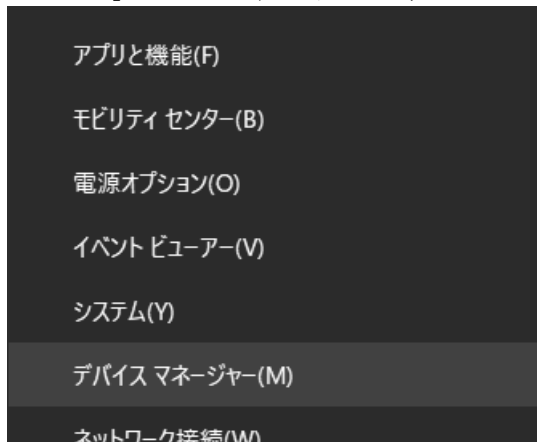


- (8) しばらくすると、下記バルーンがパソコン上に表示されます。
これで、USB 通信ができる状態となります。



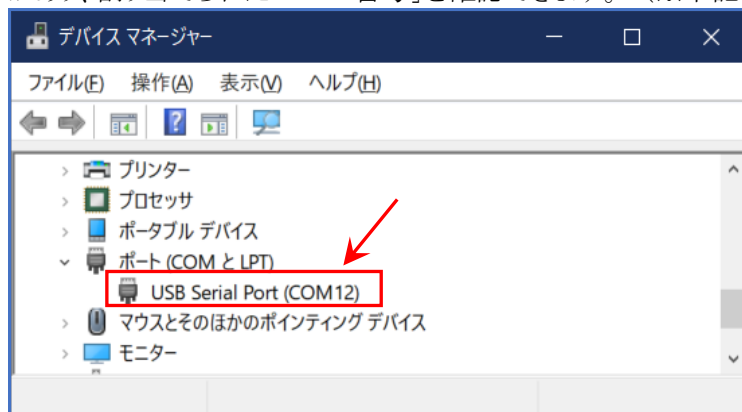
4 割り当てられた COM 番号確認のしかた

- (1) 「スタート」ボタンを右クリックして、メニューから「デバイスマネージャー」を選択します。



(※Windows 7 の場合、「スタートボタン」-「コンピュータを右クリック」-「プロパティ」-「デバイスマネージャー」を選択します。)

- (2) 「デバイスマネージャー」画面の「ポート(COM と LPT)」項目に「USB Serial Port」というデバイスがあり、割り当てられた「COM 番号」を確認できます。(※下記は COM 番号=12 の例です。)



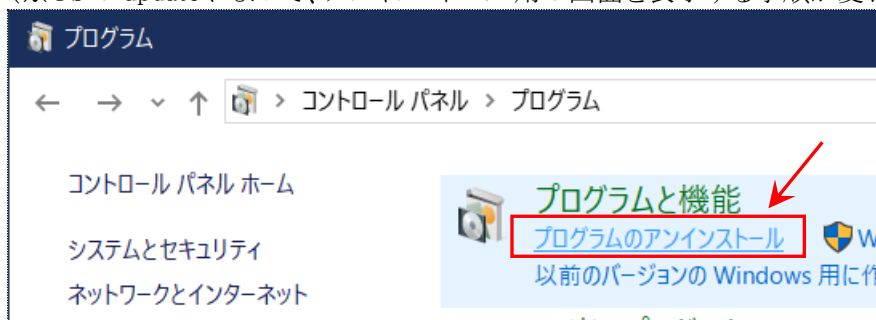
【memo】

電話機本体と USB 接続している状態でのみ確認できます。

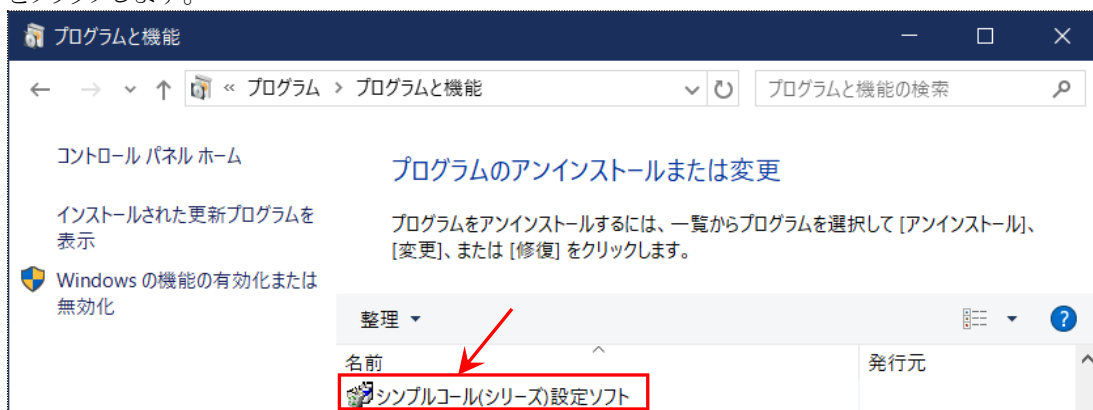
5 アンインストールのしかた

5.1 本ソフトのアンインストール

- (1) 「スタート」ボタンから「コントロールパネル」を開きます。
(※Windows 10 の場合、「Windows システムツール」内にあります。)
- (2) 「コントロールパネル」から[プログラム]>[プログラムのアンインストール]をクリックします。
(※OS の update によって、アンインストール用の画面を表示する手順が変わりことがあります。)



- (3) プログラムの一覧から[シンプルコール(シリーズ)設定ソフト]を選択し、「アンインストールと変更」をクリックします。



- (4) アンインストーラが起動しますので、画面の指示に従ってアンインストールしてください。

6 本体との接続のしかた

6.1 本体の電源供給

本ソフトを使用するにあたり、電話機本体を下記の手順にて『設定用モード』で起動させます。

- (1) 電話機本体の電源が OFF であることを確認します。
- (2) 電話機本体裏面のシャットダウンスイッチを押しながら、電話機本体とパソコンとを USB ケーブルで接続します。
(電話機本体が『設定用モード』で起動します。)



左図は Light 用で、
Trad/TAXI は[SD]
の識別になります

※電話機本体は、パソコンからUSBケーブル経由で電源が供給されますので、USBケーブルを接続すると電話機本体の電源が ON します。

■ 設定用モード起動方法(シンプルコール Light) ■

<電話機裏面>



USB コネクタ

シャットダウンスイッチ

①シャットダウンスイッチを押しながら(押し込んだままで)、パソコンに USB ケーブルを接続する。

<電話機表面(※LED 部分)>



アンテナ表示 LED

状態表示 LED

②状態表示 LED、アンテナ表示 LED が緑色で「低速点滅(点灯 1 秒⇔消灯 1 秒)」表示になったことを確認した後に、シャットダウンスイッチから指を離す。

※全ての LED が緑点滅で、電話機本体が『設定用モード』として起動した状態となります。

■ 設定用モード起動方法(シンプルコール Trad / シンプルコール TAXI) ■

電話機本体の形状はシンプルコール Light と異なりますが、設定モードの起動手順は同じです。



USB コネクタとシャットダウンスイッチは
左図の配置になります。(本体の背面)

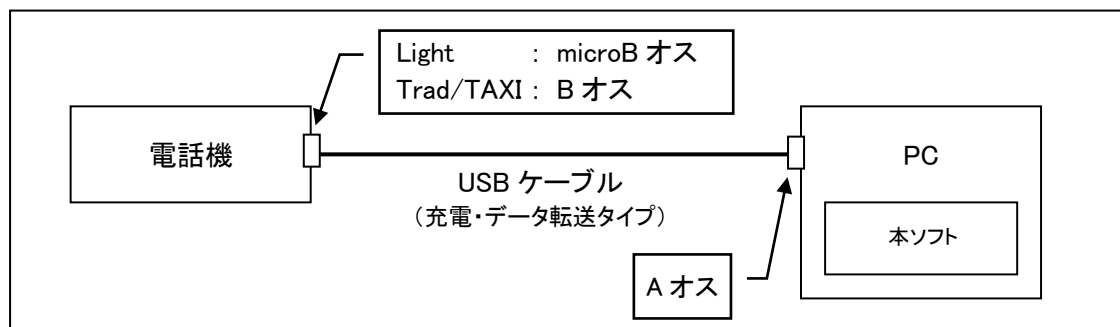
6.2 電話機本体との接続用 USB ケーブル

- 電話機本体とパソコン間を接続する USB ケーブルは以下の形状のものを 사용합니다。

シンプルコール Light	【「microB オス-A オス」形状】  マイクロ Bコネクタ  USB Aコネクタ
シンプルコール Trad / TAXI	【「B オス-A オス」形状】  USB Bコネクタ  USB Aコネクタ

- 市販品の USB ケーブルをご利用いただけますが、「充電・データ転送」タイプのものでご使用ください。

(※「充電」のみのタイプの USB ケーブルは利用できません。)



7 起動と終了のしかた

7.1 起動のしかた

- (1) パソコンのデスクトップ上に作成されている「ショートカットアイコン」をダブルクリックして、設定ソフトを立ち上げます。



※「Ver1.0.1.0」以前の設定ソフトをお使いの場合、「1.回線設定」画面が最初に表示されます。

※「Ver1.1.0.0」以前の設定ソフトをお使いの場合、タイトル部が「シンプルコールLight 設定ソフト」と表示されます。

7.2 終了のしかた

下記何れかの方法で設定ソフトを終了できます。

【「ファイル」メニューからの終了】

- 「ファイル」メニュー>「終了」をクリックする。

【「×」ボタンからの終了】

- メイン画面右上の「×」ボタンをクリックする。

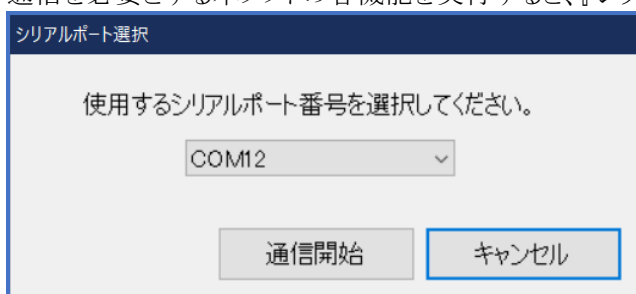
8 通信設定のしかた

電話機本体とパソコンを接続しただけでは通信できません。通信する際にシリアルポートを開く必要があります。

通信を必要とする本ソフトの各機能(パラメータ読出、パラメータ書込、動作ログの読出しなど)を実行しますと、通信用シリアルポート番号の選択ダイアログが表示されます。

選択ダイアログに従って、『シリアルポート番号 (COM 番号)』の選択を行ってください。

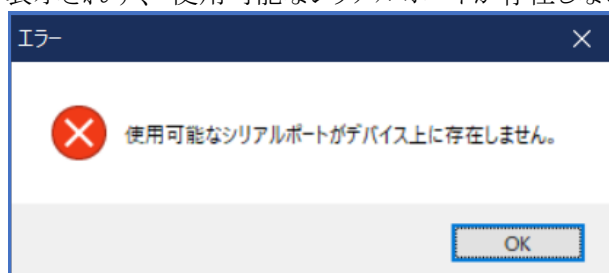
- (1) 通信を必要とする本ソフトの各機能を実行すると、『シリアルポート選択』ダイアログが表示されます。



左記画面は、
COM 番号 12 の例です。

【memo】

パソコン上のデバイスにポートが 1 つも存在しない場合、上記の『シリアルポート番号』ダイアログは表示されず、「使用可能なシリアルポートが存在しない」旨のエラーダイアログが表示されます。



本エラーダイアログが表示された場合、以下の内容を確認してください。

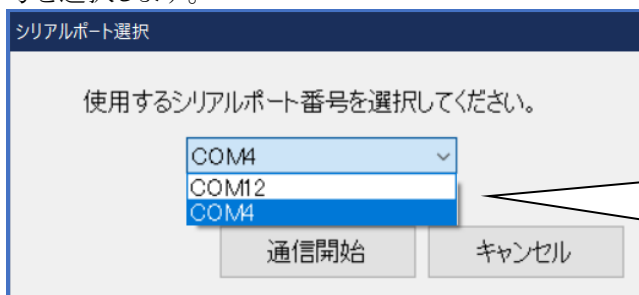
- USB ドライバのインストールを行ったか？
- USB ドライバが正常にインストールできているか？
- USB ケーブルがパソコン上で正しく認識できているか？
- 電話機本体とパソコンが、正しく USB ケーブルで接続されているか？

【シリアルポート(USBドライバ状態)の確認について】

電話機本体とパソコンを USB ケーブルで接続し、デバイスマネージャー(「4」項参照)の画面を確認してください。

例えば COM 番号が表示されていても、警告マークが出ている場合には正しく通信できません。メーカーのサイトをご確認いただき、対象 OS および最新版のドライバを入手してインストールし直してください。

- (2) 『シリアルポート選択』ダイアログ上のドロップダウンリストから、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。



本ソフトは、パソコン上のデバイスに存在しているポート番号を自動取得し、一覧として表示します。

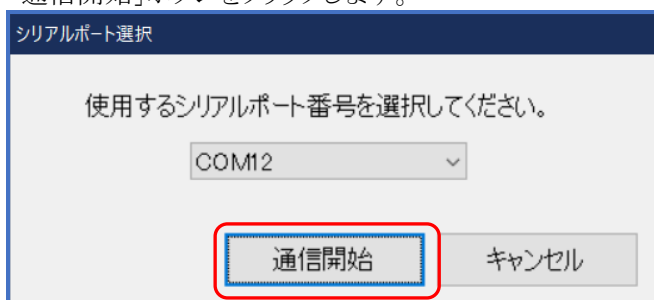
(※パソコン上のデバイスに存在していないポートは、ドロップダウンリスト上には表示されません。)

【memo】

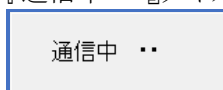
対応しているシリアルポート番号が、ドロップダウンリストに表示されない場合、以下の内容を確認してください。

- USBドライバのインストールを行ったか？
- USBドライバが正常にインストールできているか？
- USB ケーブルがパソコン上で正しく認識できているか？
- 電話機本体とパソコンが、正しく USB ケーブルで接続されているか？

- (3) 「通信開始」ボタンをクリックします。

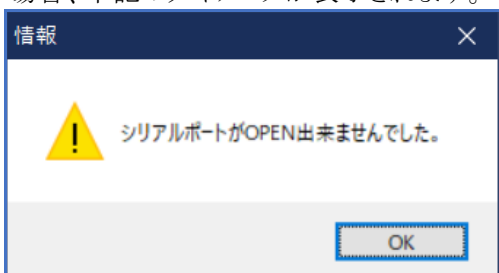


- (4) 『通信中・・・』ダイアログが表示され、通信が開始されます。



【memo】

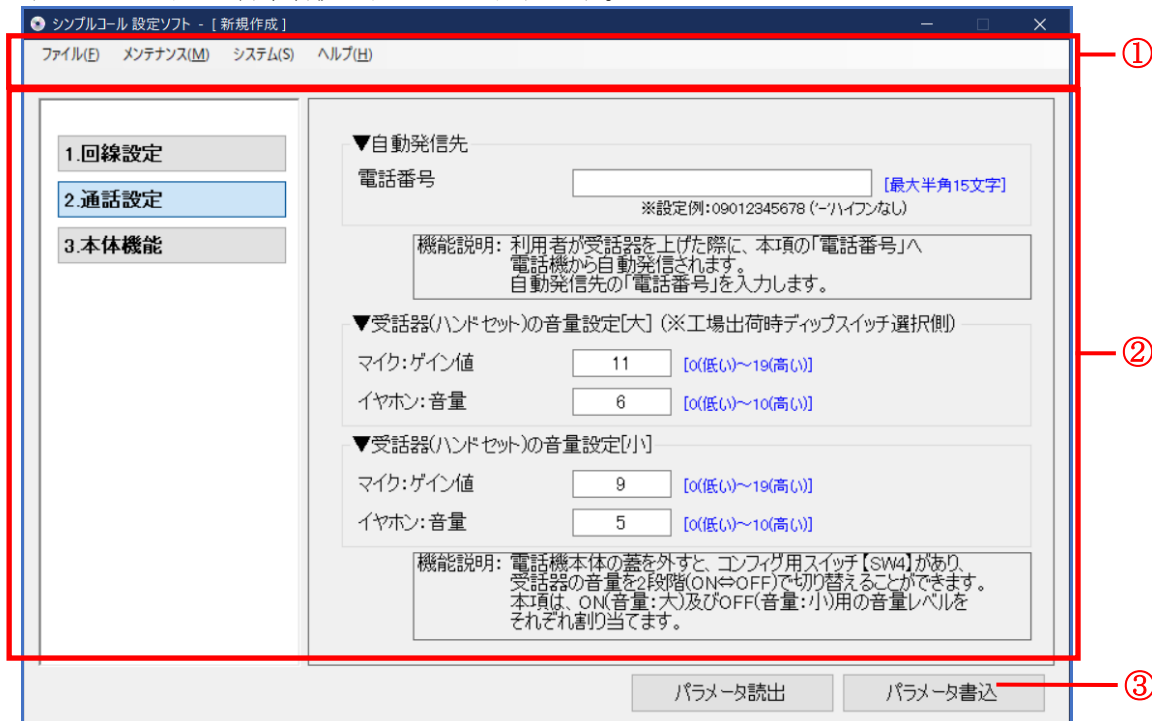
選択したシリアルポートが「他のプログラムで使用されている」等の要因によって OPEN に失敗した場合、下記のダイアログが表示されます。



9 基本機能

9.1 メイン画面構成

本ソフトを起動した際、最初に表示される画面です。



※「Ver1.0.1.0」以前の設定ソフトをお使いの場合、「1.回線設定」画面が最初に表示されます。

※「Ver1.1.0.0」以前の設定ソフトをお使いの場合、タイトル部が「シンプルコール Light 設定ソフト」と表示されます。

① メニューバー

[ファイル(F)], [メンテナンス(M)], [システム(S)], [ヘルプ(H)]の各機能を実行できます。

② 設定領域

各種設定を行う領域。タブ切替で設定種別の選択/切替できます。

③ 機能ボタン

[パラメータ読出], [パラメータ書込]の各機能を実行できます。

9.2 メニューバーの構成

メニュー名	項目	内容
ファイル	新規作成	パラメータを新規に作成します。
	開く	パソコンに保存したパラメータファイルを開きます。
	名前を付けて保存	パラメータ内容を任意のファイル名でパソコン上に保存します。
	上書き保存	現在開いているパラメータファイルに上書き保存します。
	終了	本ソフトを終了します。
メンテナンス	動作ログ読み出し	電話機本体の動作ログを読み出します。
	集計データ(通話記録)読み出し	通話操作時間の記録データを読み出します。
	パラメータ初期化	電話機本体のパラメータを初期化します。
	外部バックアップRAMクリア	SRAM に保存されている各種ログデータをクリアします。(※内蔵コイン電池で保存)
	集計データ(通話記録)削除	通話操作時間の記録データを削除します。
	端末ソフトバージョンアップ	電話機本体のソフトウェアを更新します。
システム	UIMカード電話番号読み出し	組込んだ UIM カードの電話番号を読み出します。(電話機が通常起動し、待受け状態のときに読出し可能)
	端末現在時刻読み出し	電話機本体が計時している現在の時刻情報を読み出します。
	端末ソフトバージョン読み出し	電話機本体のソフトウェアバージョン情報を読み出します。
	通信モジュールバージョン読み出し	内蔵通信モジュールのソフトウェアバージョン情報を読み出します。(電話機が通常起動し、待受け状態のときに読出し可能)
ヘルプ	バージョン情報	本ソフトのバージョンおよび、対応している電話機本体のソフトウェアバージョン情報を表示します。

【memo】

本ソフトの対応バージョンよりも古い電話機本体(ソフトウェア)をご使用いただいた場合、正しく設定・情報読み出しできない場合があります。

この場合、「端末ソフトバージョンアップ」で電話機本体のソフトウェアを最新バージョンに書き換えるようにしてください。

(※電話機本体のソフトウェアデータは、本ソフトおよび取扱説明書と同じく、当社のダウンロードサイトから入手いただけます。)

9.3 パラメータ編集のしかた

【タブ切替】

本ソフト画面(左側エリア)上のタブを選択することで、各パラメータ設定画面を切り替えることができます。

▽「1.回線設定」パラメータ

機能説明:
 電話機でVoLTE通話する際、LTE網(spモード接続を想定)を利用します。
 spモード以外へ接続するUIMカードをご使用いただく場合は、
 本項で別のLTE網の設定内容に変更してください。

設定例:
 自己IPアドレス: 0.0.0.0
 接続先APN情報: [spモード] spmode.ne.jp [moperaU] mopera.net
 接続認証方式: CHAP(MD5)
 接続認証ユーザ名: user (※任意内容)
 接続認証パスワード: pass (※任意内容)

▽「3.本体機能」パラメータ

着信選択

☒ 音声着信を利用しない
☐ 音声着信を利用する

▼着信制限機能

☐ 着信できる電話番号を限定する [最大半角15文字]

受け付ける電話番号【1】
 受け付ける電話番号【2】
 受け付ける電話番号【3】
 受け付ける電話番号【4】
 受け付ける電話番号【5】
 受け付ける電話番号【6】
 受け付ける電話番号【7】
 受け付ける電話番号【8】
 受け付ける電話番号【9】
 受け付ける電話番号【10】

※設定例: 09012345678 (〜ハイフンなし)

9.4 各編集画面の機能

9.4.1 回線設定

電話機本体は「音声通話のみ」に用いる機器ですが、「VoLTE」方式で通話する際に LTE 網を利用します。default 条件として「sp モードで LTE 網に接続する」ことを想定していますが、「sp モード以外」へ接続する UIM カードを使用する場合は、設定内容を変更します。

<VoLTE 回線>

(※「Ver1.0.1.0」よりも前の設定ソフトをお使いの場合、初期値が「moperaU」になっていますので変更が必要です。)

- 「sp モード」で LTE 網に接続する場合、上記の初期値から変更不要です。(default の想定環境)
- 「moperaU」で接続する場合、画面右上にある「moperaU」の初期値自動入力ボタンを押して、「接続先 APN 情報」を「mopera.net」に変更してください。
- 自社の LTE 閉域網などに接続する場合、各設定を対応する情報へと変更してください。

No	オブジェクト名	入力方式/入力規制
1	自己 IP アドレス	●テキスト入力。(※半角数字入力のみ有効とする。) ●最大半角 3 文字を超える入力は不可とする。
2	接続先 APN 情報	●テキスト入力。(※半角英数字入力のみ有効とする。) ●最大半角 32 文字を超える入力は不可とする。
3	接続認証方式	●ドロップダウンリストからの選択。 認証なし、PAP、CHAP(MD5)
4	接続認証ユーザ名	●テキスト入力。(※半角英数字入力のみ有効とする。) ●最大半角 54 文字を超える入力は不可とする。
5	接続認証パスワード	●テキスト入力。(※半角英数字入力のみ有効とする。) ●最大半角 16 文字を超える入力は入力不可とする。 ●入力された文字は「●」を用いて表示する。

<その他>

- VoLTE 通話(回線接続)するためにはネットワーク側と回線交換できる状態になっている必要があり、何らかの要因で回線情報の不一致が発生している場合、回線接続できなくなります。「通信異常判定回数」は、「受話器操作しても電話が繋がらない」状態が続いた際に、「ネットワークとの回線情報不一致状態を解消するための復旧動作(通信モジュールのリセット)」を開始するまでの操作回数になります。
(※上記画面にある「5 回」に設定している場合、受話器操作(繋がらない状態)を 5 回実施した後、通信モジュールのリセットを開始します。)
- UIM カードに対して「PIN コードのロック用機能(PIN コード照合してから使用できる条件)」を設定いただいている場合、該当する PIN コード内容に変更してください。

【memo】

誤った PIN コード内容で電話機本体が 3 回照合を実施/失敗しますと、UIM カードがロックして使用できなくなりますのでご注意ください。
照合に失敗した場合、電話機本体の LED で専用のエラーパターンが表示されます。繰り返し試そうとせずに、PIN コード内容を再設定してください。
(※LED 表示の点灯パターンについては、「シンプルコール Light 取扱説明書」をご参照ください。)

No	オブジェクト名	入力方式/入力規制
1	通信異常判定回数	●テキスト入力。(※半角数字入力のみ有効とする。) ●最大半角 2 文字を超える入力は不可とする。
2	PIN コード	●テキスト入力。(※半角数字入力のみ有効とする。) ●4~8 文字以外は入力不可とする。

9.4.2 通話設定

シンプルコール 設定ソフト - [新規作成]

ファイル(F) メンテナンス(M) システム(S) ヘルプ(H)

1.回線設定
2.通話設定
3.本体機能

▼自動発信先
電話番号 [最大半角15文字]
※設定例:09012345678 (ハイフンなし)

機能説明: 利用者が受話器を上げた際に、本項の「電話番号」へ電話機から自動発信されます。自動発信先の「電話番号」を入力します。

▼受話器(ハンドセット)の音量設定[大] (※工場出荷時ディップスイッチ選択側)
マイク:ゲイン値 11 [0(低い)~19(高い)]
イヤホン: 音量 6 [0(低い)~10(高い)]

▼受話器(ハンドセット)の音量設定[小]
マイク:ゲイン値 9 [0(低い)~19(高い)]
イヤホン: 音量 5 [0(低い)~10(高い)]

機能説明: 電話機本体の蓋を外すと、コンフィグ用スイッチ【SW4】があり、受話器の音量を2段階(ON⇔OFF)で切り替えることができます。本項は、ON(音量:大)及びOFF(音量:小)用の音量レベルをそれぞれ割り当てます。

パラメータ読出 パラメータ書込

ご利用になる電話機の動作にあわせて設定値を入力します。

- 受話器(ハンドセット)をあげた際、自動的に電話を掛ける相手先の番号を入力してください。
 - 受話器のマイクとイヤホン部分の音量レベルを調整できます。
- なお、「大きな値は音割れ」「小さな値は聞こえない状態」になり易いため、ご注意ください。

No	オブジェクト名	入力方式/入力規制
1	電話番号	●テキスト入力。(※半角数字入力) ●最大半角 15 文字を超える入力は不可とする。 ●ハイフン(-)は入力不可とする。
2	マイク:ゲイン値	●テキスト入力。(※半角数字入力) ●最大半角 2 文字を超える入力は不可とする。
3	イヤホン: 音量	●テキスト入力。(※半角数字入力) ●最大半角 2 文字を超える入力は不可とする。

9.4.3 本体機能

<音声着信>

ご利用になる電話機の動作にあわせて設定値を入力します。

- 電話機本体への音声着信を利用される場合、「音声着信を利用する」に変更してください。
なお、変更することによって、以下の「▼着信制限機能」の入力が有効な状態に変わります。

- 特定の相手先(電話番号)からの音声着信のみを受け付けるようにする場合は、「着信できる電話番号を限定する」にチェックを付けて、対象となる電話番号を入力してください。
(ホワイトリストとして、最大 10 件まで登録できます。)

No	オブジェクト名	入力方式/入力規制
1	着信選択	● ラジオボタンからの選択。
2	着信できる電話番号を限定する	● チェックボックスからの選択。
3	受け付ける電話番号	● テキスト入力。(※半角数字入力) ● 最大半角 15 文字を超える入力は不可とする。

<時間帯切替>

シンプルコール 設定ソフト - [新規作成]

ファイル(F) メンテナンス(M) システム(S) ヘルプ(H)

音声着信 | **時間帯切替** | 時刻補正 | 集計データ

1.回線設定
2.通話設定
3.本体機能

切替選択
☒ 切替機能を利用しない
☐ 切替機能を利用する

▼切替発信先
 電話番号 [最大半角15文字]
※設定例:09012345678 (‘-’ハイフンなし)

切替する時間帯
 開始時刻: 00 時 00 分
 ~
 終了時刻: 00 時 00 分

機能説明:
 ・「2.通話設定」>「自動発信先」の電話番号とは別に、時間帯に応じて別の電話番号へ自動発信先を切替えることができます。
 (例) 夜間のみ、発信先を上記の電話番号に切り替える。
 ・本項で設定した時間帯(切替発信先電話番号)以外の時間帯は、「2.通話設定」>「自動発信先」の電話番号宛での自動発信となります。

パラメータ読出 パラメータ書込

「受話器をあげた際、自動的に電話を掛ける相手先」を1日の時間帯に応じて切り替えできます。

(※例えば、昼間と夜間で電話を掛ける相手先番号を切替えることができます。)

ご利用になる電話機の動作にあわせて設定値を入力します。

- 発信先の切り替え機能を使用する場合、「切替機能を利用する」に変更してください。
なお、変更することによって、以下の「▼切替発信先」の入力が有効な状態に変わります。

▼切替発信先

電話番号 [最大半角15文字]
※設定例:09012345678 (‘-’ハイフンなし)

切替する時間帯
 開始時刻: 00 時 00 分
 ~
 終了時刻: 00 時 00 分

- 切替えて発信する相手先の電話番号と、切り替えする時間帯を入力してください。

No	オブジェクト名	入力方式/入力規制
1	切替選択	● ラジオボタンからの選択。
2	切替発信先 電話番号	● テキスト入力。(※半角数字入力) ● 最大半角 15 文字を超える入力は不可とする。
3	切替する時間帯	● テキスト入力。(※半角数字入力のみ有効とする。) ● 最大半角 2 文字を超える入力は不可とする。

<時刻補正>

シンプルコール 設定ソフト - [新規作成]

ファイル(F) メンテナンス(M) システム(S) ヘルプ(H)

音声着信 時間帯切替 **時刻補正** 集計データ

1.回線設定

2.通話設定

3.本体機能

時刻補正間隔(日) 1 日 [1~15日]

時刻補正実施時刻 0 時 0 分 [0時0分~23時59分]

機能説明:
 ・電話機本体は、時刻情報を持っています。
 (時間帯切替][ログ機能]で現在時刻の情報を使用します。)
 (電源ON後、自動的に時刻を取得します。)
 ・時刻を定期的に補正する間隔(日)、及び実施時刻を入力します。
 例) 1日間隔の22時30分と入力した場合、
 毎日22時30分に時刻補正が行われます。

留意事項:
 ・時刻補正中は通話機能を利用できませんので、
 利用者の少ない時間帯にあわせておくことをお勧めします。
 (内蔵通信モジュールをリセットしてネットワークに再接続します。)
 ・電源ON後、アンテナ表示が1本以下(弱電界)の環境であると、
 時刻の取得に失敗して時計が設定されていない状態に成り得ます。
 この場合、正しい時刻をいったん取得できるまでは、本画面で
 設定した実際の時刻とは異なるタイミングで時刻取得を試行します。

パラメータ読出 パラメータ書込

ご利用になる電話機の動作にあわせて設定値を入力します。

- 電話機本体の時刻を補正する際、完了するまでは通話できない状態となります。
 初期設定は「毎日 00:00」の実施タイミングです。
 当該時間帯に通話操作をされる場合は、別の実施時刻へと変更してください。

No	オブジェクト名	入力方式/入力規制
1	時刻補正間隔(日)	●テキスト入力。(※半角数字入力のみ有効とする。) ●最大半角 2 文字を超える入力是不可とする。
2	時刻補正実施時刻	●テキスト入力。(※半角数字入力のみ有効とする。) ●最大半角 2 文字を超える入力是不可とする。

<集計データ>

シンプルコール 設定ソフト - [新規作成]

ファイル(F) メンテナンス(M) システム(S) ヘルプ(H)

1.回線設定
2.通話設定
3.本体機能

音声着信 時間帯切替 時刻補正 集計データ

集計機能 使用選択

☒ 使用しない
☐ 使用する (フル件数保存時: 最古データを消して、最新データを登録)
☐ 使用する (フル件数保存時: 最新データは登録しない)

機能説明:

- ・通話操作の時間を記録する機能になります。(1件ごとに記録します。)
- ・以下の形式の記録を2000件まで保存できます。(カンマ区切り)
 [呼出時刻 応答時刻 終了時刻 呼出コード 相手先電話番号]

※時刻は[YYMMDDhhmmss](西暦下2桁)形式です。
 ※電話が繋がらなかった際の[応答時刻]は[FFFFFFFFFFFF]です。
 ※[呼出コード]は[01:音声発信][02:音声着信(受付)][03:音声着信(拒否)]です。
 ※[相手先電話番号]はハイフンなし。非通知の場合[FFFFFFFFFFFFFFFF]です。

パラメータ読出 パラメータ書込

電話機本体で通話操作した時間の集計データを「通話記録」として記録できます。(最大 2000 件)
 本ソフトで集計データ(通話記録)を読み出せます。('11.2'項参照)

ご利用になる電話機の動作にあわせて設定値を入力します。

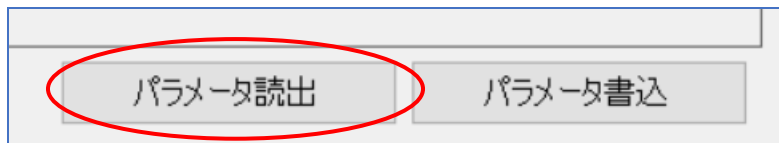
- 「集計データ(通話記録)」の保存・読出し機能を使用される場合は、「使用する」に変更してください。(最大件数分まで記録された後の振る舞いを 2 パターンから選択できます。)

No	オブジェクト名	入力方式/入力規制
1	集計機能 使用選択	●チェックボックスからの選択。

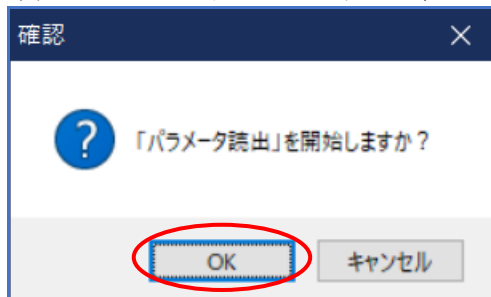
9.5 パラメータ読出

電話機本体から現在のパラメータを読み出します。

- (1) 本ソフト画面上の右下部にある「パラメータ読出」ボタンをクリックします。

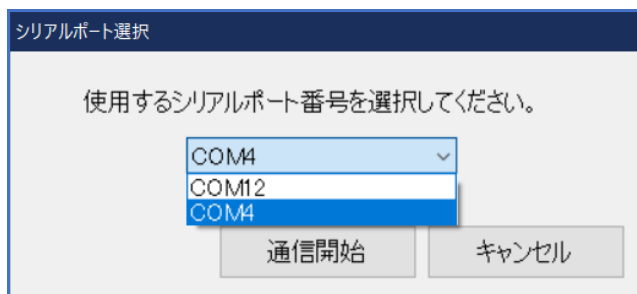


- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

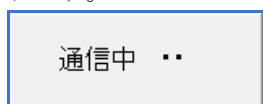


- (3) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。

(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)



- (4) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、パラメータ読出が開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

- (5) パラメータ読出が完了しますと、完了した旨のダイアログが表示されます。

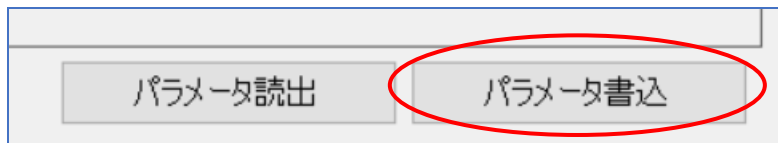
【memo】

“通信異常”等の要因によってパラメータ読出が失敗した場合、エラーダイアログが表示されます。

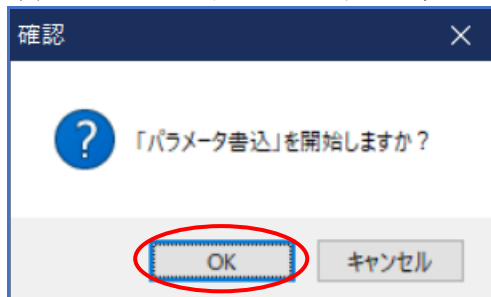
9.6 パラメータ書込

電話機本体へパラメータを書き込みます。

- (1) 本ソフト上の右下部にある「パラメータ書込」ボタンをクリックします。

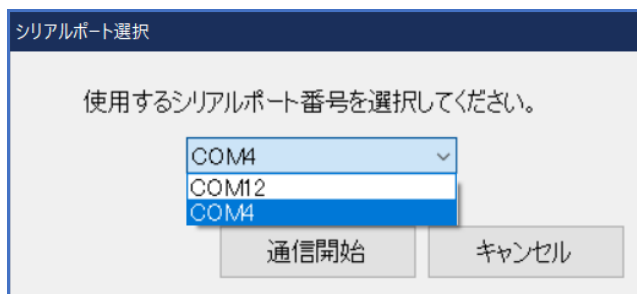


- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

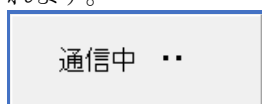


- (3) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。

(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)



- (4) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、パラメータ書込が開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

- (5) パラメータ書込が完了しますと、完了した旨のダイアログが表示されます。

【memo】

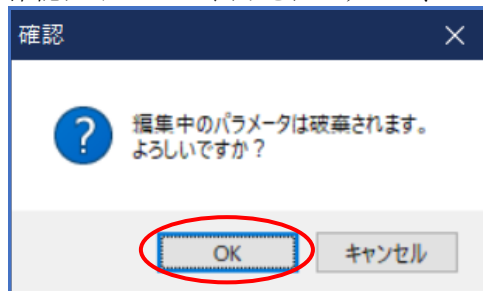
“通信異常”等の要因により、パラメータ書込が失敗した場合は、エラーダイアログが表示されます。

10 ファイル機能

10.1 新規作成

パラメータを新規に作成します。(※各設定画面上にパラメータ初期値が展開されます。)

- (1) 本ソフトのメニューバーから「ファイル(F)」>「新規作成(N)」を選択します。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 各設定画面上にパラメータ初期値が展開されます。

【memo】

- 本ソフトを起動した際は、「新規作成」の状態になります。
- パラメータ編集集中であった場合、本機能を実行しますと、編集集中の設定内容は破棄されます。

10.2 開く

パソコンに保存したパラメータファイルを開きます。(※拡張子は「*.TXF」)

(※各設定画面上にパラメータファイルの内容が展開されます。)

- (1) 本ソフトのメニューバーから「ファイル(F)」>「開く(O)...」を選択し、『ファイルを開く』画面を開きます。
- (2) 『ファイルを開く』画面から、対象となる“パラメータファイル”を選択します。
- (3) 各設定画面上にパラメータファイルの内容が展開されます。

【memo】

パラメータ編集集中であった場合、本機能を実行しますと、編集集中の設定内容は破棄されます。

10.3 名前を付けて保存

各設定画面上のパラメータ内容をパソコン上に任意の名称でパラメータファイルとして保存します。

- (1) 本ソフトのメニューバーから「ファイル(F)」>「名前を付けて保存(A)...」を選択し、『名前を付けて保存』画面を開きます。
- (2) 保存したいファイル名を入力/指定します。
- (3) 『名前を付けて保存』画面上の「保存」ボタンをクリックします。
- (4) 上記(2)のファイルに、各設定画面上のパラメータ内容を格納して保存します。

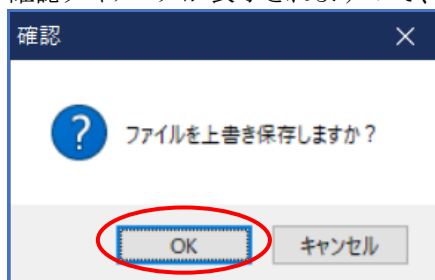
【memo】

既に保存されているファイル名と同じ名称を「保存したいファイル名」として入力/指定した場合は、“上書き保存”されます。

10.4 上書き保存

現在開いているパラメータファイルに対して、各設定画面上のパラメータ内容で上書き保存します。

- (1) 本ソフトのメニューバーから「ファイル(F)」>「上書き保存(S)」を選択します。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 現在開いているパラメータファイルに上書きで保存します。
(各設定画面上のパラメータ内容を保存します。)

【memo】

パラメータファイルを開いていない場合は、「名前を付けて保存」と同じ処理が実行されます。

10.5 終了

本ソフトを終了します。

- (1) 本ソフトのメニューバーから「ファイル(F)」>「終了(Q)」を選択します。
- (2) 本ソフトが終了します。

【memo】

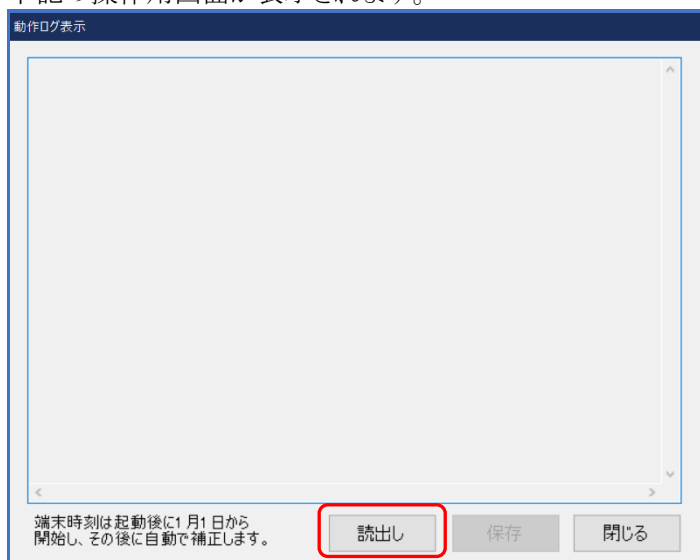
パラメータの編集途中であった場合、本機能を実行しますと、編集途中の設定値は破棄されます。

11 メンテナンス機能

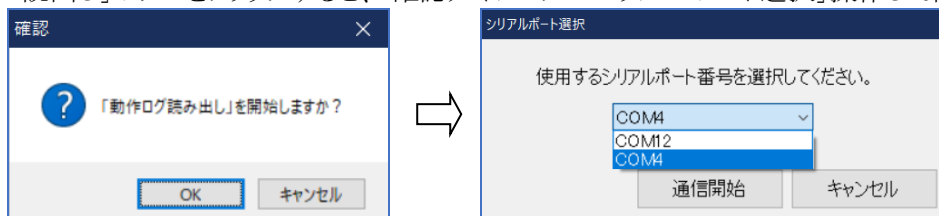
11.1 動作ログ読み出し

電話機本体は、各種動作のログ情報を随時記録しています。(※最新の 1000 件分まで記録)
本ソフトで動作ログを読み出して、内容を確認/保存することができます。

- (1) 本ソフトのメニューバーから「メンテナンス(M)」>「動作ログ読み出し(A)...」を選択します。
- (2) 下記の操作画面が表示されます。



- (3) 「読出し」ボタンをクリックすると、「確認ダイアログ⇒シリアルポート選択」操作して読み出せます。



- (4) 読み出した動作ログ内容は、「保存」ボタンの操作でファイル名を付けて保存できます。

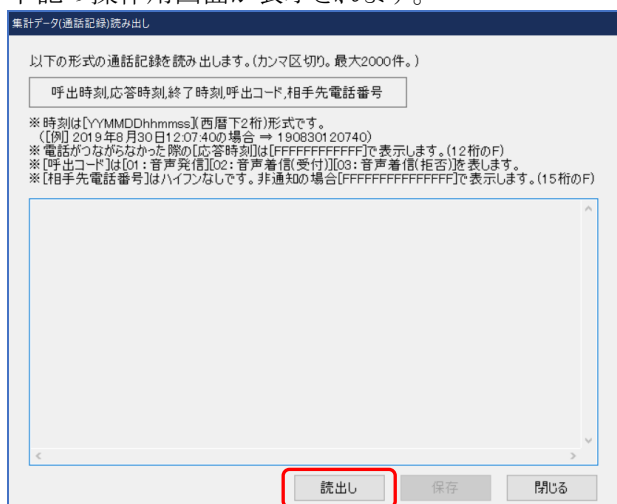


(拡張子は「*.log」)

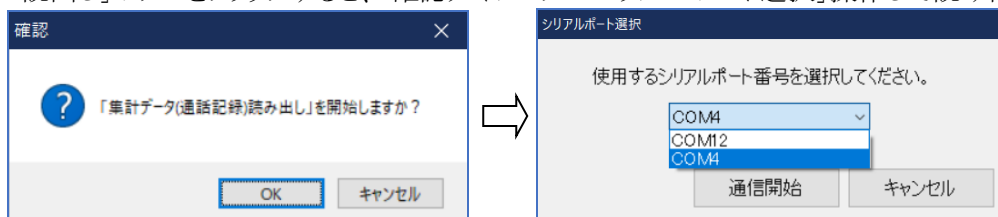
11.2 集計データ(通話記録)読み出し

電話機本体に、通話操作した時間の集計データを「通話記録」として記録させることができます。
(※「9.4.3」項の「集計データ」画面で「使用する」に設定した場合に、最大 2000 件分まで記録します。)
本ソフトで集計データ(通話記録)を読み出して、内容を確認/保存することができます。

- (1) 本ソフトのメニューバーから「メンテナンス(M)」>「集計データ(通話記録)読み出し(C)...」を選択します。
- (2) 下記の操作画面が表示されます。



- (3) 「読み出し」ボタンをクリックすると、「確認ダイアログ⇒シリアルポート選択」操作して読み出せます。



- (4) 読み出した通話記録の内容は、「保存」ボタンの操作でファイル名を付けて保存できます。



(拡張子は「*.log」)

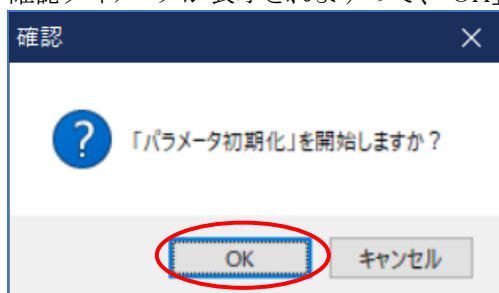
11.3 パラメータ初期化

電話機本体のパラメータを初期値内容へと初期化します。

■重要■

- 本機能を実行することで、電話機本体のパラメータ内容が初期化されます。
- 自動発信先の電話番号が未設定の状態に戻りますので、改めて再設定が必要となります。
- なお、本操作を実行しても、本ソフトの各設定画面上のパラメータ内容は初期値に戻しません。
そのため、引き続きパラメータ内容の編集を実施される際はご注意ください。
- 電話機本体のソフトをバージョンアップ(書き換え)した際、機能拡張によってパラメータの構成が変わることがあります。
この場合は、本操作によって電話機本体のパラメータ情報を初期化してから、ご利用条件のパラメータを再設定してください。

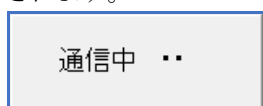
- (1) 本ソフトのメニューバーから「メンテナンス(M)」>「パラメータ初期化(I)」を選択します。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。
(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)



- (4) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、パラメータ初期化が開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

- (5) パラメータの初期化が完了しますと、完了した旨のダイアログが表示されます。

【memo】

“通信異常”等の要因により、パラメータ初期化が失敗した場合は、エラーダイアログが表示されます。

11.4 外部バックアップ RAM クリア

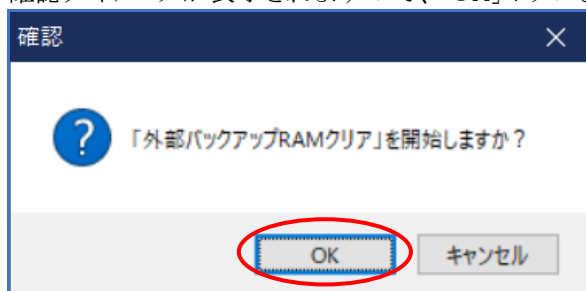
電話機本体の SRAM に保存されている各種ログデータをクリアします。

(※SRAM のデータ内容を内蔵コイン電池でバックアップしています。)

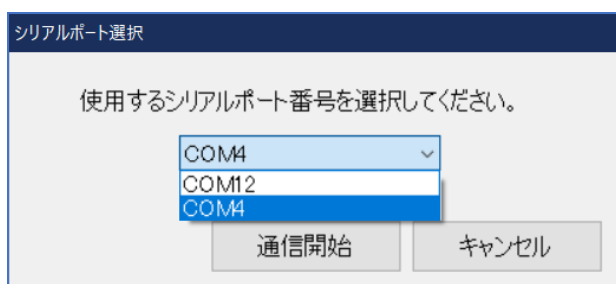
【memo】

本機能によって、各種ログデータ(動作ログ、通話記録)を強制的にクリアします。

- (1) 本ソフトのメニューバーから「メンテナンス(M)」>「外部バックアップ RAM クリア」を選択します。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。
(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)



- (4) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、RAM クリアが開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

- (5) SRAM データのクリアが完了しますと、完了した旨のダイアログが表示されます。

【memo】

“通信異常”等の要因により、RAM クリアが失敗した場合は、エラーダイアログが表示されます。

11.5 集計データ(通話記録)削除

電話機本体に、通話操作した時間の集計データを「通話記録」として記録させることができます。
(※「9.4.3」項の「集計データ」画面で「使用する」に設定した場合に、最大 2000 件分まで記録します。)

本機能によって、記録済みの集計データ(通話記録)を削除(全クリア)できます。

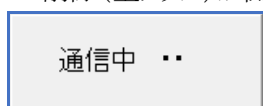
- (1) 本ソフトのメニューバーから「メンテナンス(M)」>「集計データ(通話記録)削除(D)」を選択します。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。
(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)



- (4) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、集計データ(通話記録)の削除(全クリア)が開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

- (5) 集計データ(通話記録)の削除が完了しますと、完了した旨のダイアログが表示されます。

【memo】

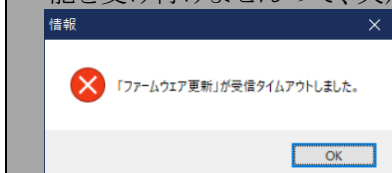
“通信異常”等の要因により、集計データ(通話記録)の削除が失敗した場合は、エラーダイアログが表示されます。

11.6 端末ソフトバージョンアップ

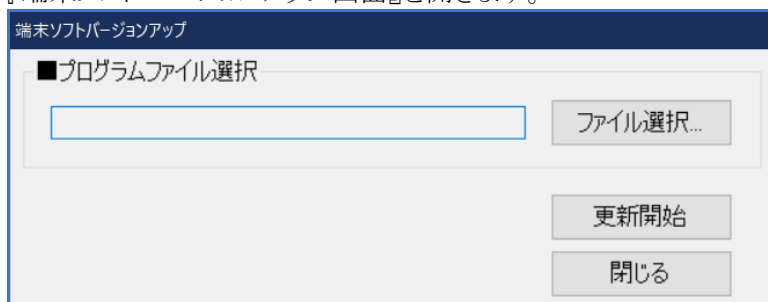
電話機本体のソフト(ファームウェア)を新しいバージョンに書き換えることができます。
あらかじめ、『書き込むプログラムファイル(***.mot)』を準備しておく必要があります。

■ 重要 ■

- 本機能を利用する際、電話機本体を設定用モードで立ち上げる必要があります。
(「6.1 本体の電源供給」の項を参照)
- 電話機本体が設定用モードで起動していない場合は、電話機本体側でバージョンアップ機能を受け付けませんので、失敗となってエラー情報のダイアログが表示されます。



- (1) 本ソフトのメニューバーから「メンテナンス(M)」>「端末ソフトバージョンアップ(U)...」を選択し、『端末ソフトバージョンアップ画面』を開きます。

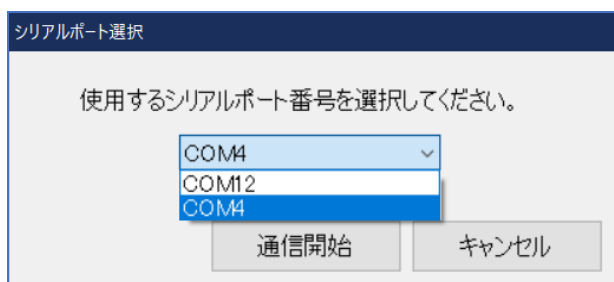


- (2) 『端末ソフトバージョンアップ画面』の「ファイル選択...」ボタンを押下し、『書き込むプログラムファイル(***.mot)』を選択します。
- (3) 『端末ソフトバージョンアップ画面』の「更新開始」ボタンをクリックします。
- (4) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

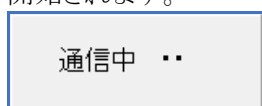


- (5) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。

(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)



- (6) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、本体ソフトの書き換えが開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

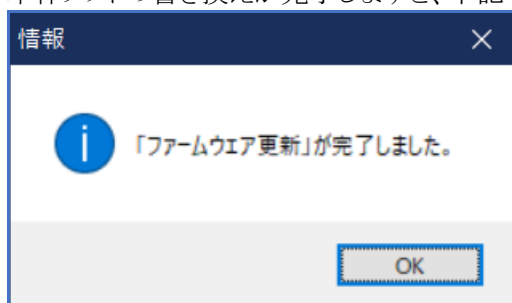


本体ソフトの更新(書き換え)中は、『端末ソフトバージョンアップ画面』の左下に進捗状況が表示されます。

■ 重要 ■

- 電話機本体のソフト更新中に電話機本体の電源をOFFしないでください。更新中に電源OFFされますと、タイミングによってはソフトが壊れて起動できなくなることがあります。この場合、電話機本体をメーカーへセンドバックいただく形の修理が必要になります。

- (7) 本体ソフトの書き換えが完了しますと、下記のダイアログが表示されます。



※電話機本体のLEDは、「アンテナ表示:全消灯」「状態表示:緑点灯」の状態になります。

- (8) 電話機本体の電源をOFFして、バージョンアップ操作を終了します。

【memo】

- 本操作で電話機本体のソフトを書き換えしても、設定済みのパラメータ内容は残ります。
 - ただし、機能拡張に伴って「パラメータ構成が変わる本体ソフトのバージョン」へと書き換えした場合は、以下の操作を実施してください。
- (1) 電話機本体を設定用モードで起動させる。
 - (2) 「11.3 パラメータ初期化」の項にあるパラメータ初期化操作を実施する。
 - (3) 電話機本体のパラメータを再設定する。

12 システム機能

12.1 UIM カード電話番号読み出し

電話機本体に挿入されている UIM カードの電話番号情報を読み出します。

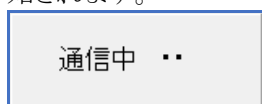
- (1) 本ソフトのメニューバーから「システム(S)」>「UIM カード電話番号読み出し(S)」を選択します。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。
(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)

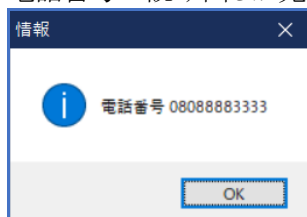


- (4) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、電話番号読み出しが開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

- (5) 電話番号の読み出しが完了しますと、電話番号情報のダイアログが表示されます。



【memo】

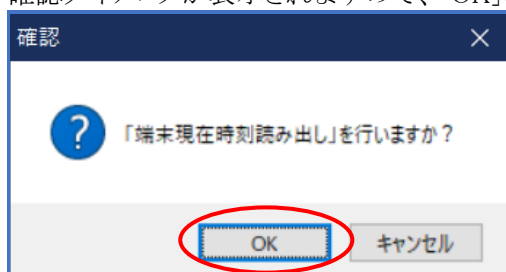
- “通信異常”等の要因により、読み出しが失敗した場合は、エラーダイアログが表示されます。
- 起動直後、もしくは設定用モードで起動している場合は、UIM カードを読み込みしていません。
このような場合、ダイアログ内の電話番号の部分が「-----」表示になります。

12.2 端末現在時刻読み出し

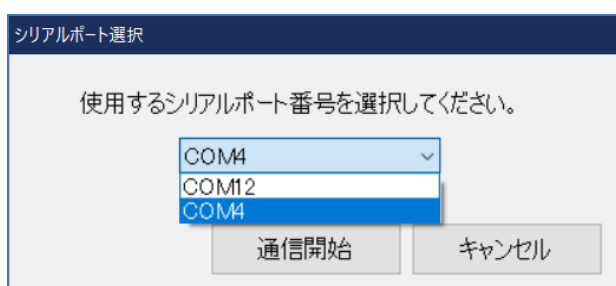
電話機本体が計時している現在時刻の情報を読み出します。

(※電話機本体の時刻は、起動時に[2019 年 1 月 1 日 00:00:00]から始まり、通常起動後に時刻を補正してから現在時刻へと変わります。)

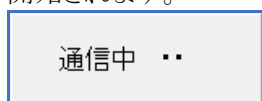
- (1) 本ソフトのメニューバーから「システム(S)」>「端末現在時刻読み出し(T)」を選択します。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。
(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)

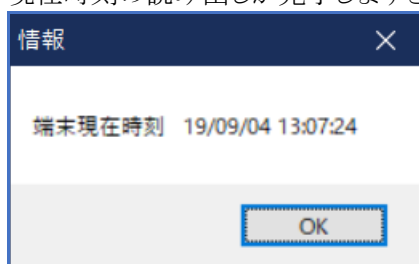


- (4) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、現在時刻の読み出しが開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

- (5) 現在時刻の読み出しが完了しますと、現在時刻情報のダイアログが表示されます。



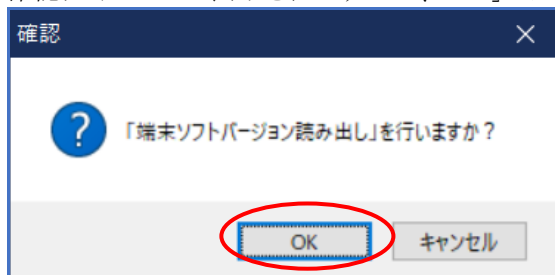
【memo】

“通信異常”等の要因により、読み出しが失敗した場合は、エラーダイアログが表示されます。

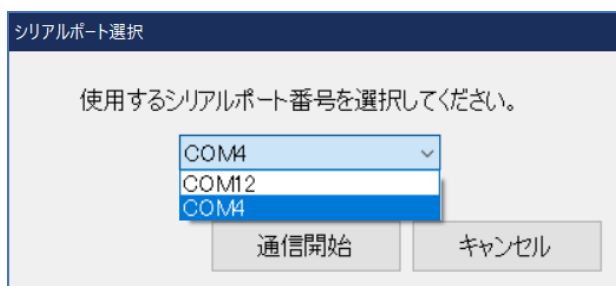
12.3 端末ソフトバージョン読み出し

電話機本体のソフトウェアバージョン情報を読み出します。

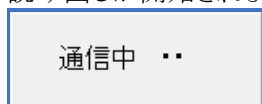
- (1) 本ソフトのメニューバーから「システム(S)」>「端末ソフトバージョン読み出し(V)」を選択します。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。
(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)

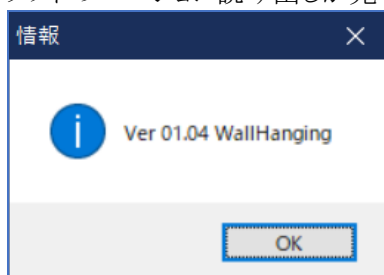


- (4) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、本体ソフトのバージョン読み出しが開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

- (5) ソフトのバージョン読み出しが完了しますと、ソフトバージョン情報のダイアログが表示されます。



「Ver. XX.XX WallHanging」
↑ ↑ ↑
この部分が Version 値

【memo】

“通信異常”等の要因により、読み出しが失敗した場合は、エラーダイアログが表示されます。

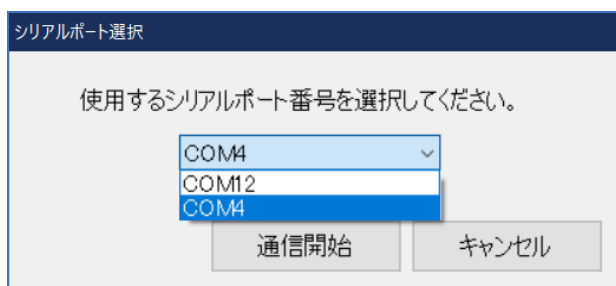
12.4 通信モジュールバージョン読み出し

電話機本体に内蔵している通信モジュールのソフトバージョン情報を読み出します。

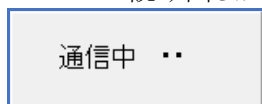
- (1) 本ソフトのメニューバーから「システム(S)」>「通信モジュールバージョン読み出し(M)」を選択します。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 『シリアルポート選択画面』が表示されますので、電話機本体と接続されているポート番号を選択します。
(※詳細は、「8 通信設定のしかた」を参照してください。)

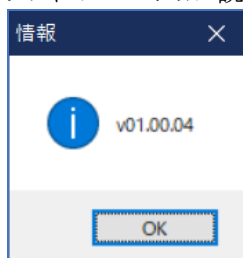


- (4) 『シリアルポート選択画面』上の「通信開始」ボタンをクリックすることで、通信モジュールのソフトバージョン読み出しが開始されます。



通信中は、通信中ダイアログが表示されます。

- (5) ソフトのバージョン読み出しが完了しますと、ソフトバージョン情報のダイアログが表示されます。



【memo】

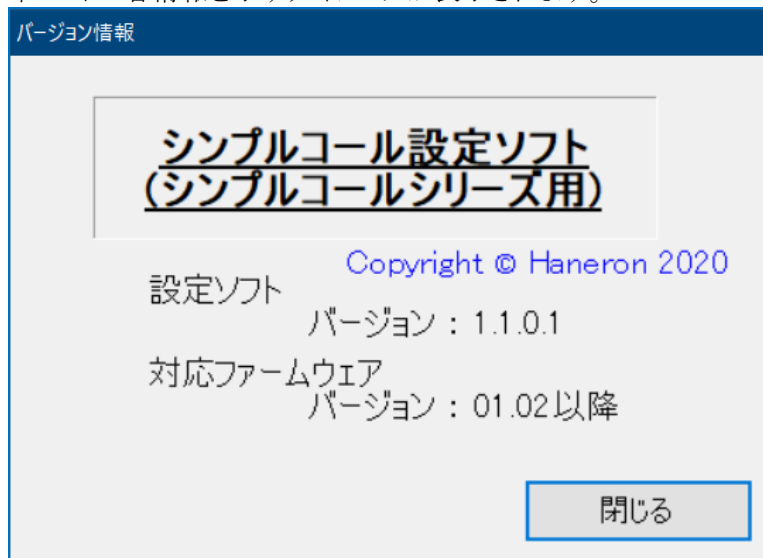
- “通信異常”等の要因により、読み出しが失敗した場合は、エラーダイアログが表示されます。
- 起動直後、もしくは設定用モードで起動している場合は、通信モジュールの情報を読み込みしていません。このような場合、ダイアログ内のバージョン情報が「―. ―」表示になります。

13 ヘルプ機能

13.1 バージョン情報

本ソフトのバージョン情報および、本ソフトで扱える電話機本体のソフト(ファームウェア)バージョンの各情報を表示します。

- (1) 本ソフトのメニューバーから「ヘルプ(H)」>「バージョン情報(A)...」を選択します。
- (2) 本ソフトの各情報を示すダイアログが表示されます。



14 改訂履歴

版数	改訂日	参照	改訂内容
1.00	2019/09/04		初版
1.10	2019/11/29	表紙	対象設定ソフト Version の情報を追加
↑	↑	7.1、9.1	起動後に表示される画面を「2.通話設定」の画面に変更
↑	↑	8	シリアルポート(USBドライバ状態)の確認に関する補足説明追記
↑	↑	9.3	「1.回線設定」画面の内容を変更
↑	↑	9.4.1	「1.回線設定」(VoLTE 回線)画面の内容を変更 設定に関する説明内容を変更 (default を sp モード接続とする)
↑	↑	9.4.1	「1.回線設定」(その他)画面の PIN コードを用いて電話機が照合に失敗した場合、専用の LED パターン表示となる旨を追記
1.20	2020/03/04	全般	「シンプルコール Light 設定ソフト」⇒「シンプルコール(シリーズ)設定ソフト」に名称を変更
↑	↑	1	「V1.1.0.0」以降から上記名称に変わった旨の説明を追加
↑	↑	6.1	シンプルコールの「Light」と「Trad/TAXI」で、設定モード起動方法の説明を切り分け
↑	↑	6.2	シンプルコールの「Light」と「Trad/TAXI」で、使用する USB ケーブル形状の説明を切り分け
↑	↑	7.1	ショートカットアイコンと起動後の初期画面を「シンプルコール(シリーズ)設定ソフト」の内容に変更 「V1.1.0.0」以前の画面タイトル部の表示名称が異なる旨を追記
↑	↑	9.1	画面を「シンプルコール(シリーズ)設定ソフト」の内容に変更 「V1.1.0.0」以前の画面タイトル部の表示名称が異なる旨を追記
↑	↑	9.4.1～9.4.3 13.1	各画面を「シンプルコール(シリーズ)設定ソフト」の内容に変更
1.21	2021/10/27	表紙、13.1	対象設定ソフト Version の情報を「V1.1.0.1 以降」に変更
↑	↑	9.4.1	「回線設定」ー<その他>画面を変更 (※「通信異常判定回数」の初期値を「10⇒5 回」に変更) 「通信異常判定回数」の意味合いに関する説明を追記
↑	↑	9.4.3	「本体機能」ー<時刻補正>画面を変更 (※画面内の説明内容を変更)